

# 『学び合い』って何？

私たちの『学び合い』研究室

# 本日のアウトライン

- I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？
- II 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なのでしょうか？
- III 『学び合い』の考え方とはどのようなものなのでしょうか？
- IV 『学び合い』の考え方を享受した子どもたちの間では、どのようなことが起きているのでしょうか？
- V 『学び合い』の考え方には、いったい、どのような魅力があるのでしょうか？

I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

学校の授業というのは、本来、全員が達成すべき目標（ねらいやめあて、課題）があって、授業が終わるときには、全員がそれを達成できた状況、言い換えれば、目標が達成できなかった子や分からないまま終わってしまう子が誰もいなくなった状況、に至るべきなのです。



ところが、現実的には難しいのです。

それは、どうしてでしょうか？

I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

それは、第一に、

「子どもたちの理解が多様である」

からです。

(子どもたち側の要因)

I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

■国語や理科の授業で理解が進むときというのは、理解の仕方にぴったり合うような情報を示してもらったときです（鈴木他1989）。



したがって、一人の先生がどんなにがんばって教えてくれたとしても、40人の子どもたち全員の理解が促されるとは考えられません。

I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

第二に、

「教師は最善の教え手ではない」  
からです。

(教師側の要因)

# I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

得意な人は式1に必要な数値をいきなり代入して解き始める

## 【中学校第1分野の問題】

10kgのおもりを20m上げられる機械がある。仕事率100W以上の性能があることを証明するには、何秒以内で20m上げなければならないか？

なお、 $m$ (kg)のおもりを $h$ (m)持ち上げる仕事 $K$ は、 $K = m \times g \times h$ (J:ジュール)である(式1)。

$g$ は重力加速度で $10\text{m}/\text{S}^2$ とする。また、仕事 $K$ をするのに、 $t$ (秒)かかったときの仕事率 $P$ (W:ワット)は、 $P = K / t$ である(式2)。

苦手な人は時間( $t$ )を含む式を見つけて解き始める

# I なぜ、『学び合い』の考え方をすすめるのでしょうか？

得意な人(優秀な人)は、その知識や技能を発揮することを意識せずにできるようになります(意識できなくなります)。仮に意識できたとしても、なぜ自分がそのような技能を発揮できるのかを説明できなくなってしまう。無理に説明しようとした場合、「得意だから」とか「こうやると便利なんだ」という、苦手な人(よく分からない人)には理解できない説明となってしまいます。この現象を**自動化**と呼びます。



得意な人は苦手な人に対して、「なんでこんなことが分からないんだ(できないんだ)」西川(1999,99-100)

例). ・キーボード入力, 数学や物理の大学入試問題の解法



Ⅱ 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なののでしょうか？

それでは、どうしたらよいのでしょうか？

## Ⅱ 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なのでしょうか？

「子どもたちは有能である」という考え方があります。

個々の学習者は能動的で、有能である



児童・生徒が自分自身の知識を構成し、自分自身の世界の意味を理解する



知識や意味生成は個々の学習者の中で私的に構成される(構成主義)

(稲垣・波多野,1989)

客観主義

「知識の教授」に重点を置き、学習者を知識のない受け身の存在であると見なしている

構成主義

学習者を積極的に環境に働きかけ、既存の知識を駆使して、新しい知識を主体的に構築していく存在であると見なしている

## Ⅱ 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なのでしょうか？

「学習者は置かれている社会的な文脈(状況)に依存して学習状況が決定する」という考え方があります。

- 通常、約20%のアリが懸命に働き、約80%のアリは怠けている。勤勉なアリだけを集めて集団を作ると、同じ割合で怠惰なアリが現れる。怠惰なアリだけを集めて集団を作ると、同じ割合で懸命に働くアリが現れる。個々のアリが勤勉・怠惰なのではなく、社会的関係の中で決定される。  
(日本総合研究所, 1997)

### ■ 理科の授業では、

課題解決役(実験や課題を与えられたときに進んで遂行する人)

モニター役(実験がスムーズに進行するように課題解決役の人等にアドバイスする人)

記録役(ノートやプリント等に記録する人。実験時間中ずっと筆記用具をもっていることが多い。)

傍観・実験不参加役(実験を行うとき、何の行動も起こさなかったりほとんど会話しなかったりと班員に協力せずに、班員が実験を終了するのを黙って待っている人)

実験に参加する生徒を集めると、実験に参加しない生徒が現れる。実験に参加しない生徒を集めると、実験に参加する生徒が現れる。ある生徒が実験に参加する／参加しないは、個人によって決定されるのではなく、社会的に決定されるのである。(西川,2002)

Ⅱ 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なののでしょうか？

「情報の3階層モデル論」という考え方があります。

(後藤・野島,1993)

教える専門家(ブレイン)

要点をまとめて伝える↑↓専門的に解説する

情報の中継役(ゲート・キーパー)

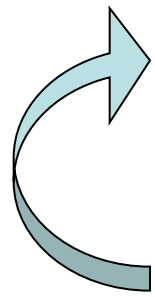
分からないことを聞く↑↓分かりやすく伝える

学ぶ人・質問する人(エンド・ユーザー)

## Ⅱ 『学び合い』の考え方を支えているのは、どのような理論なのでしょうか？

- 実際の授業の場面でも、学ぶ人・質問する人(エンド・ユーザー)の中から情報の中継役(ゲート・キーパー)が現れることがあります。

教える専門家＝先生



情報の中継役＝ 学ぶ人・質問する人の  
中から自然に現れる

学ぶ人・質問する人＝生徒

情報の中継役がたくさん現れると、学ぶ人・質問する人に分かりやすく教えてあげられる機会が増えます。→分からない人がいなくなる

### Ⅲ 『学び合い』の考え方とはどのようなものなのでしょうか？

次の3つの考え方を教師と子どもたちが共有している授業です。

- 子どもが有能である(教師と同等かそれ以上)ことを信じるという**学習者観(子ども観)**
- 授業は、ゲート・キーパーが自然発生する環境を整えるという**授業観**
- 学校は、みんなで助け合ってみんなが目標達成できる集団を作りながら自分を高めるところという**学校観**

(西川, 2006)

つまり、『学び合い』というのは3つの考え方なのです。

### Ⅲ 『学び合い』の考え方とはどのようなものなのでしょう うか？

大切なことは3つの考え方です。

#### ◎子どもたちをどのようにとらえるか

子どもたちには問題解決に向かう有能な力があるという考え方。教師はそれを信じることである。

#### ◎授業をどのようにとらえるか

授業は、自分の分からなさを解決してくれるための情報を持っている人を探すものであるという考え方

#### ◎学校をどのようにとらえるか

学校は、みんなで助け合ってチーム・プレイをしながら、みんなが目標達成するところであるという考え方

### Ⅲ 『学び合い』の考え方はどのようなものなのでしょう うか？

子どもたちがこれらの考え方を享受すると、あちこちにゲートキーパーが現れて、『学び合い』の現象が自然発生するようになります。

- ・子どもたちは、どんどんおしゃべり(ローカル会話)を始めます。
- ・子どもたちは、どんどん立ち歩きを始めます。
- ・目標達成できない子どもたちが、ゲート・キーパーを探しておしゃべりをはじめ動き回って、どんどん行動を起こします。
- ・目標達成できた子どもたちが、「みんなができる」ことを目指して、困っている子どもたちとの関わりを持つようと、声を掛け合って動き回って、どんどん行動を起こします。
- ・子どもたち同士の、自発的に情報を提供したり情報を受け取ったりする様子が、あちこちに自然発生的に現れます<sup>16</sup>



### Ⅲ 『学び合い』の考え方とはどのようなものなのでしょう うか？

■ 学び合いと聞いて思い浮かべる、いわゆる学び合い  
場を提供し、プロセスを作ることによって、子どもたちは学び合うという考  
え方

場を提供する      ペア学習

                         グループ学習

                         グループをどのように作ったら良いか

プロセスの構築 「導入→展開における話し合い→終末」

                         ルールを作る

#### 教師が最善だと思っている関わり合い(関わらせ合い?)

→子どもたちは必然性を持たない

そこでは、

指示されたことはできる

できる子が教える

リーダーが主導する

### Ⅲ 『学び合い』の考え方とはどのようなものなのでしょう うか？

#### ■ 私たちの主張する『学び合い』の考え方

場やプロセスを提供しても子どもたちの考え方が変わらなければ生じない

「分からないことを、いつでも、誰に聞いても良いのは素晴らしい」

「聞いたり教えたりして、みんなができることは素晴らしい」

学び合う場      自然に現れては消え、消えては現れる

プロセス      自然に現れては消え、消えては現れる

#### 子どもたちが最善だと思っている関わり合い(関わり合いの自然発生)

→子どもたちは必然性を持つ

そこでは、

指示されなくてもし始める

できない子も教え始め、できる子ができない子から学ぶ

リーダーが自然に現れては消え、消えては現れる

# グループ学習 ←+++++●『学び合い』

- ・授業前に決まっている
- ・教師がグループを決める
- ・なぜグループを作るのか子どもたちは必然性を持たない
- ・授業の目標が示されない(グループを作ることが先にある)
- ・授業中, 構成員は固定
  
- ・授業中, 人数は固定
- ・話し合いのルールあり
- ・司会(リーダー)等の役割あり
- ・グループ作りが目的化
- ・話し合いが目的化
- ・座席配置にこだわる
- ・グループ名(1班, 2班...)あり

(グループ名が付けられることによってそこに固定化される懸念)

- ・授業中に決まる
- ・児童・生徒がグループを決める
- ・なぜグループを作るのか子どもたちは必然性を持っている
- ・授業の目標が示される(グループありきではない)
- ・授業中, 構成員は自然発生, 自然消滅(流動)
- ・授業中, 人数は流動
- ・話し合いのルールなし
- ・司会(リーダー)等の役割なし
- ・グループは手段
- ・話し合いは手段
- ・座席配置は自然発生的(自由)
- ・グループ名は付けようがない

# IV 『学び合い』の考え方を享受した子どもたちの間では、どのようなことが起きているのでしょうか？

簡易検流計の目盛の読み方が理解できず、針が1. 2(電流値0. 12A)の目盛のところに来たときにどのように読みとったらよいかをEに聞いた

**イントロダクター** - E1: 1? 2? イチニでいいのかな。

F1: 1. 2。

E2: 1だとさ・・・, 何て言えばいいんだろ。分かんないなあ。

F2: 1でしょ。

E3: 1だと変だよ。イチイチだと変だよ。

F3: ああん。1と小さい1。

E4: そうすると, ここは10でもいいでしょ。

F4: 1. 1だって。

E5: 1. 1? G, これどうやって読む? 小さい目盛。

(簡易検流計の目盛に鉛筆で数字を記入する。)

**ゲートキーパー** - G1: 「にい, しい, ろのやのと」って読む。

(Eは驚いた顔をして, しばらくGを見つめていた。)

E6: 読み方にすればそうだけど・・・。

(Gは, Eに対して, 目盛板に自分で書いた数字を指しながら。)

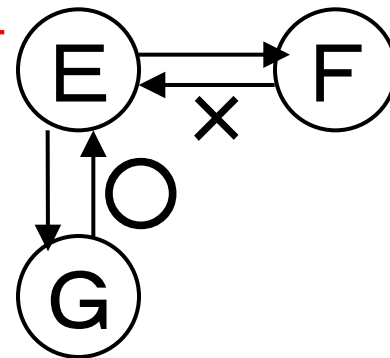
**ゲートキーパー** - G2: 「にい, しい, ろのやのと」で1でしょ。分かる?

E7: うん。

**ゲートキーパー** - G3: ここは? 1の下。

E8: 1. 2か。

**イントロダクター** -



**ゲートキーパー** -

小4「電気のはたらき」  
自分の作ったモーター  
カーに簡易検流計を接  
続して電気の秘密を自  
由に探る活動が展開さ  
れた。

(三崎・綿谷2005)

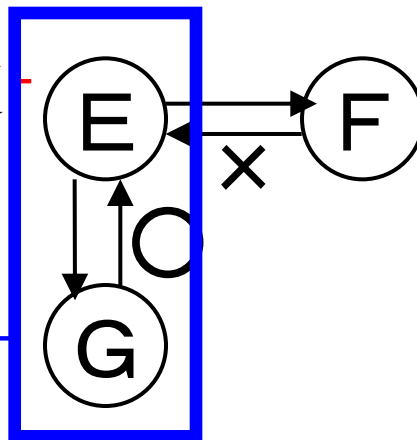
# IV 『学び合い』の考え方を享受した子どもたちの間では、どのようなことが起きているのでしょうか？

簡易検流計の目盛の読み方が理解できなかった(小4・12A)の目盛のところに来たときにどのように読みとったらよいかをEに聞いた

インタビュー - E1: 1

F1:

インタビュー -



分からない子が  
主役になる  
授業

最小目盛  
0.2を1と読  
むことを教  
えて混乱を  
招く

Fは1.1を  
主張する

あきらめて  
Gに聞く

E5:

(簡易検流計の目盛。)

ゲートキーパー -

G1: 「にい、しい、ろのやのと」って読む。

(Eは驚いた顔をして、しばらくGを見つめていた。)

E6: 読み方にすればそうだけど・・・

(Gは、Eに対して、目盛板に自分で書いた数字を指しながら。)

ゲートキーパー -

G2: 「にい、しい、ろのやのと」で1でしょ。分かる？

E7: うん。

ゲートキーパー -

G3: ここは？ 1の下。

E8: 1. 2か。

小4「電気のはたらき」  
自分の作ったモーター  
カーに簡易検流計を接  
続して電気秘密を自  
由に探る活動が展開さ  
れた。

(三崎・綿谷2005)

## V 『学び合い』の考え方には、いったい、どのような魅力があるのでしょうか？

◎『学び合い』の良いところは、

- ・分からない生徒が、一人もいなくなる。
  - 学力が向上する。特に下位の生徒が伸びる。
- ・会話できない子が、一人もいなくなる。
  - コミュニケーション能力が向上する。
  - 特に、苦手な生徒が伸びる。
- ・助け合わない子が、一人もいなくなる。
  - 人間関係が向上する。[教科における道德教育]
  - 特に、助けてもらえなかった生徒が動き始める。
- ・「気になる子」が、一人もいなくなる。
  - 授業中に気になっていた子が活躍する。
  - 特別支援を必要とする生徒の居場所ができる。
  - 外国人生徒の居場所ができる。